

コロナ禍から見(え)た ニッポンの教育

オックスフォードで考えたこと

2021年度6月開催の定例セミナーでは、オックスフォード大学教授の荻谷剛彦氏にご登壇いただきます。

小中学校で新しい学習指導要領の下での教育が始まる時期と重なって、新型コロナウイルスの感染拡大が世界を席卷しました。2020年の春には一斉休校の措置が執られ、その後、学校は再開したものの、日本全体での感染者数はいくつかの波を経験しつつ抑制に向かう兆しはまだ見えません。医療面に留まらず、経済や社会への影響も計り知れない状況で、次に何が起こるのか、それが見えにくい状況が続いています。不確実性や不可知な出来事(「予測できない未来」)が私たちを取り巻く中で、日本の教育には何が求められるのでしょうか。今回のセミナーでは、コロナ禍を経験する中で見えてきた日本の教育の課題や問題点について、日本から距離を置いた視点から日本の教育を見てきた立場よりご紹介いただきます。

講師

「主体的・対話的で深い学び」の推奨を謳う新指導要領では、「予測できない未来」「社会の変化」に「主体的に向き合って関わり合う」ことのできる能力や資質の育成が目指されています。そのような資質や能力とはどのようなものでしょうか。それらを育成するためにはどのような教育が求められるのでしょうか。いや、そもそも「主体的・対話的で深い学び」とは何かを、私たちはどのように理解している(つもり)なのでしょうか。こうした教育改革のスローガンと実際の教育との狭間をどう理解するか。この講演では、コロナ禍を経験する中で私たち大人が経験してきた、「予測できない未来」への対応の難しさという認識を出発点に、今後の日本の教育について一緒に考えていきたいと思います。



荻谷 剛彦 氏

オックスフォード大学社会学科
およびニッサン現代日本研究所教授

1955年東京都生まれ。米国ノースウェスタン大学で Ph.D (社会学) 取得。2008年より現職。2009年まで東京大学大学院教育学研究科教授。

専門は社会学、現代日本社会論。著書に『知的複眼思考法』『学校って何だろう』『階層化日本と教育危機』(大佛次郎論壇賞奨励賞)『大衆教育社会のゆくえ』『教育の世紀』(サントリー学芸賞)『Education Reform and Social Class in Japan』『Education, Equality, and Meritocracy in a Global Age』『追いついた近代 消えた近代』(毎日出版文化賞)、『コロナ後の教育へ: オックスフォードからの提唱』など。



日時

2021年

6月17日(木)

17:00 ~ 19:00

対象

私学の
教職員の方

受講費

11,000円/人(税込)

私学マネジメント協会
会員校は無料

※こちらの講座はオンライン開催のみとなりますのでご注意ください

※配信ツールはZoomを利用します

私学マネジメント協会 セミナーお申し込み方法

- ① 私学マネジメント協会を検索。
もしくは右の QR コードよりアクセスしてください。
- ② トップページ中ほどの「現在お申し込み受付中の講座」から
ご希望の講座をクリックし、申込フォームに必要事項を入力してください。



私学マネジメント協会



- ③ 受付完了後、ご入力いただいたメールアドレスに「受付完了メール」が自動送信されます。
数時間たっても受信しない場合は、お手数ですが、再度お申込みください。

【私学マネジメント協会とは】

新しい学校経営を創造する機関として2010年4月より発足いたしました。
「実際に役に立つ」情報や知識を学ぶ機会として、多くの会員校にご賛同いただき、積極的に活動に参加していただいております。本協会では「本当に学校に効果的なマネジメントとは何か」を追求し、「マーケティング」「経営戦略」「組織・人事」「マネジメント」この4つの分野に関する効果的なサービスをご提供いたします。
運営事務局を務めるコアネット教育総合研究所(株式会社コアネット)は、中学受験のための学習塾「日能研」を運営する株式会社日能研関東のグループ企業です(1998年設立)。

【ご請求について】

- ・開催終了後に、受講料の請求書をお送りします。(会員校は無料)
- ・期日までにキャンセルのご連絡がない場合は、受講料を請求させていただきます。
(詳細は受付完了メールをご参照ください)